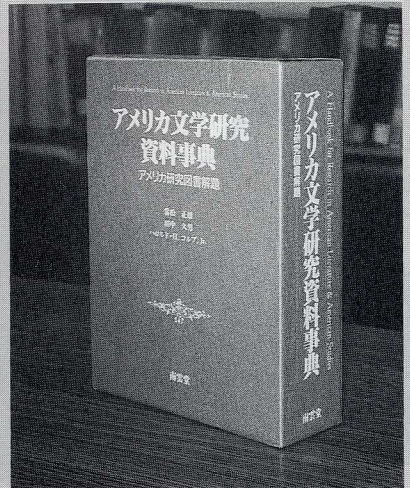




『アメリカ文学研究資料事典 —アメリカ研究図書解題』

編著者 田中久男

文・田中久男
(文学部教授)



要約

第I部「アメリカ文学研究資料」(一八〇頁)は、筆者と共編者である常松正雄甲南大学教授とが、二人の二回の留学先である米国ヴァージニア大学のハロルド・コルフ教授により編纂された『アメリカ文学研究フィールド・ガイド』を訳出したもの。

このガイドは、学位論文を仕上げる大学院生を主たる対象として書かれたもので、これだけでも、日本の大学院生にとっては優れて高度な手引き書になっている。だが、編者二人は、第II部「日本で出版された研究資料」を追補することに、書誌と事典の機能を併せ持つものにする企画を画した。

というのは、最近ではコンピュータにより、文献検索が飛躍的に容易になってきたとはいえ、複数の図書の内容、著者の意図等を

ひと目で知ること
は、まだ不可能で
あるからである。
そして自費出版の
図書が増えるにつ
れて、それらを書
誌の資料として記
録しておくことも、
重要になってきた
と認識したからで
ある。

そこで、一九四五年以降にわが国で出版されたアメリカ文学研究書と辞書類の各項目に、それらの内容を簡潔に紹介する解題をつけ、さらに翻訳本と全集に関する情報も網羅的に織り込んだ。ここで止めても、本事典の価値は十分評価してもらえたと思うが、編者たちは第II部の中に、アメリカ研究に関する文科系の諸分野—概説的なもの、歴史、政治、経済、社会、宗教、教育、人種、女性、大衆文化等—にまたがる図書一四〇〇冊を六項目に分類し、第I部と同じ要領で解題した。学術雑誌と定期刊行物については、「特集記事リスト」を記載し、索引は「人名」と「書名」を和英両方で検索できるように工夫した。

こうして出来上がった本書は、比類ない貴重な事典として読売新聞等で紹介されたが、実はこうした事典を必要とする変化が、研究

の面でも急速に起こってきたのである。

その変化とは—。
アメリカ文学を研究する方法も、時代と社会の意識を反映して、ここ十年間でかなり性格が変わってきた。特に、人種とジェンダー(男女の性差)と階級に対する研究者の意識が研ぎすまされ、必然的に従来の文学研究では表面化していなかった視点からの分析が行われるようになった。言い換えれば、伝統的な狭い領域に閉じこもらず、さまざまな領域にまたがり横断する研究のスタイルが、文学作品や作家を読み解く場合にも必要になってきたのである。

六〇年代の黒人の公民権獲得運動、七〇年代のフェミニズム運動、八〇年代の脱構築批評という各時代の先鋭な意識に突き動かされる形で、アメリカ文学の研究方法も質的に変化せざるを得なかったのである。ここから、最近では文学も多元的な文化の一部と捉える見方が優勢になってきた。

このような時流の中で、アメリカ文学の研究に、アメリカ研究の成果を利用するような領域横断的交流をもっと活性化し深めるパイオニア精神が要請されている。本事典は、そのような交流を促進する起爆剤になり得るだろう。

しかし、収めている資料が年と

ともに古くなるのは、資料事典としての宿命である。次々に出版される図書を近い将来補充しなければならぬ。たとえば、環境保全の大切さの意識が社会的に高まると同時に、ネイチャー・ライティングという新ジャンルが浮上してきたからである。増補版が出る頃には、今では思いもつかないトピック—たとえば、男性の弱小化の社会的問題—に関する図書が流行しているかもしれないが、本事典は、そうした社会的事象の推移を調べる資料事典という隠れた価値も有しているのである。

A5判、一二八八頁
二五〇〇〇円

南雲堂発行

プロフィール

- (たなか・ひさお)
- ◆一九四五年広島県生まれ
- ◆一九七三年広島大学大学院博士課程後期単位取得退学
- ◆一九九五年文学博士(広島大学)
- ◆所属|| 文学部英米文学語学講座
- ◆専攻|| アメリカ文学

